

第2次宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表4

1. 施策の目的と目標

□基本方針	4. 交通を「ひろげる」	□目的	自動運転技術や電気自動車・燃料電池車などの科学技術の進歩を踏まえ、国やモビリティ関連企業等と積極的に連携しながら、新たな科学技術の交通分野への活用を検討するとともに、鉄道やLRT、幹線バス路線などの本市と周辺市町とを結ぶ広域的な交通ネットワークの充実を図るなど、交通の範囲や可能性を拡げる。			
□施策の体系	(1) 最新の科学技術を活用して交通を発展させる (2) 新たな移動サービスを活用して交通を充実させる		(3) 広域的な交通ネットワークを充実させる			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 交流人口 (観光入込客数)	1,499万人 (H29年度)	1,513万人 (H30年度)	1,550万人 (R4年度)	96.7% ⇒ 97.6%	着実に増加している

2. 重点事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H30年度(前計画) 実施状況	R1年度 当初予定	R1年度 実施状況	R1年度 評価(◇成果◆課題)	R2年度 当初予定
4-(1)-② バス・タクシーへのゼロ エミッション車の導入推 進	交通事業者 宇都宮市	○LRTの端末交通手段へのEV導入の 検討 ⇒LRT沿線の低炭素化の取組の中 で検討	○LRTの端末交通手段へのEV導入 の検討 ⇒LRT沿線の低炭素化の取組の中 で検討	○LRTの端末交通手段へのEV導入の 検討 ⇒LRT沿線の低炭素化の取組の中 で検討	◇LRT沿線の低炭素化の取組のなかで、LRTの端末交通 手段へのEVの導入可能性について検討している。 ◆交通部門の低炭素化の促進に向けて、引き続き、トラン ジットセンターなどのLRT沿線の低炭素化の取組などと連 携しながら、公共交通車両へのEV車両の導入について検 討する必要がある。 ◎	○LRTの端末交通手段へのEV導入の 検討 ⇒LRT沿線の低炭素化の取組の中 で検討
4-(3)-② 広域バス路線の充実	交通事業者 宇都宮市	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒周辺市町との意見交換の実施(芳賀 町・市貝町・茂木町)	○LRT導入後の広域バス路線の運 行内容等の検討 ⇒LRT導入後の運行経路・運行本 数等の検討 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・ 芳賀町・市貝町・茂木町)	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒LRT導入後の運行経路・運行本数等 の検討 ⇒国・県の補助制度の活用を想定した 収支予測の実施 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)	◇LRT導入後の広域バス路線の充実に向けて、周辺市町 とともに、運行経路や運行本数等の検討を着実に推進して いる。 ◆本市におけるLRTの導入やバス路線再編を見据え、周 辺市町の財政負担への影響などにも配慮しながら、効果的 かつ効率的な広域路線の運行内容について検討する必要 がある。 ◎	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒本市の「地域公共交通再編実施計 画」の策定に向けたLRT導入後の運行 経路・運行本数等の検討・決定 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)

3. 施策の評価

<p><4-(1)>最新の科学技術を活用して交通を発展させる</p> <p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRT沿線の低炭素化に向けた取組の中で、LRTの支線バス路線へのEVの活用について検討するとともに、大谷地区において、観光客の多い期間に一部の区間で自動運転により走行するグリーン・スローモビリティによる観光二次交通の社会実験を実施することに加え、スマートシティの実現に向けた取組の中で、地域内交通等の将来的な自動運転化も見据えた地域内交通の運行の効率化と利便性の向上に向けた検討が進められるなど、先端技術の活用による交通の発展に向けた取組が着実に推進されている。 ・ <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の運行サービスや安全性の向上に向けて、自動運転技術やEV、FCVなどの最新の科学技術の公共交通への活用について、民間企業等の技術開発の状況などを注視しながら、検討を進める必要がある。

4. 施策の方針

<p><4-(1)>最新の科学技術を活用して交通を発展させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRT沿線の低炭素化の取組を進める中で、引き続き、トランジットセンターに接続するLRTの支線バス路線やタクシー車両等へのゼロエミッション車の導入について検討するとともに、ICTを活用した地域内交通の運行の効率化や将来的な地域内交通の自動運転化に向けた検討を進めていく。
--

<4-②>新たな移動サービスを活用して交通を充実させる

【成果】
・ICTを活用して都市の課題解決を図るスマートシティの実現に向けた取組の中で、太谷地域を目的地とした「観光型MaaS」の導入について検討を進めるなど、新たな移動サービスを活用した取組を着実に推進している。

【課題】
・市民の移動利便性の更なる向上を図るため、現在、取り組んでいる観光型MaaSの導入による効果などを踏まえ、引き続き、市民や市内従業者等の利用を想定した「地域MaaS」の導入についての検討を進めるとともに、この検討の中でカーシェアリングやシェアサイクルなどの新たな移動サービスの活用についても検討するなど、新たな移動サービスを活用した公共交通の利便性向上に取り組む必要がある。

<4-③>広域的な交通ネットワークを充実させる

【成果】
・本市と周辺市町を結ぶ広域バス路線について、本市におけるLRTの導入やバス路線再編の検討状況を踏まえ、運行経路や運行本数等の検討を周辺市町と一体となって進めるなど、広域的な公共交通ネットワークの充実に向けた取組を着実に推進している。
・本市と周辺市町で構成する「県央地域公共交通利活用促進協議会」において、バスの乗り方教室や路線バスにより各市町の観光名所等を巡るモニターツアーを開催するなど、公共交通の利活用の促進に県央地域の3市5町が一体となって取り組んでいる。

【課題】
・本市と周辺市町とを結ぶ広域バス路線について、引き続き、周辺市町の意向などを踏まえながら、運行経路や運行本数等の見直しを検討するなど、LRTの整備やバス路線の再編と連携しながら、効率的で利便性の高いバス路線を構築する必要がある。
・交通ICカードの導入により、県内全体のバスの利用環境が変化することから、交通ICカードの県内での普及促進に取り組むとともに、交通ICカードの導入を契機とした公共交通の利用促進に広域的に取り組む必要がある。

<4-②>新たな移動サービスを活用して交通を充実させる

・スマートシティの実現に向けた取組の中で、引き続き、「観光型MaaS」の導入に取り組むとともに、市民等の利用が想定される「地域MaaS」の導入について検討するなど、市民や来訪者などの公共交通による移動利便性の向上に取り組む。

<4-③>広域的な交通ネットワークを充実させる

・広域バス路線について、引き続き、周辺市町の財政負担への影響などにも配慮しながら、LRT導入やバス路線再編後の運行経路や運行本数等の検討を行うなど、効率的で利便性の高いバス路線の構築に周辺市町と一体となって取り組む。
・交通ICカードの導入による効果の最大化を図るため、「県央地域公共交通利活用促進協議会」などを活用しながら、交通ICカードの普及促進やICカードの導入を契機とした公共交通の利用促進に周辺市町と連携しながら取り組む。

※ 施策の評価及び施策の方針については、本資料及び別紙1-5「具体的な施策事業個票」に基づき作成

基本方針4-① 交流人口(観光入込客数)

